

## ラボ・センター紹介

# ユニバーサルデザインラボ (Universal Design Lab.)

代表: 西村秀和

専門分野: ユニバーサルデザイン、バリアフリー、アクセシビリティ、環境共生

メンバー: 中野泰志(経済学部教授)、坪井英樹(東芝デザインセンター)、池田恭一(東芝エレベータ)、小林清(東芝エレベータ) 他

ユニバーサルデザインラボは、高齢者や障がい者を含め人々が利用する施設や製品などを利用しやすくするための活動を行っています。特に、現在は、モビリティシステムマネジメントセンターとの連携により、人々が移動する際のバリアフリー化に研究の中心を置いています。東京オリンピック・パラリンピックが2020年に開催されますが、海外からの渡航者を含め、多くの方が公共交通機関や公共施設を利用して東京を移動することになります。

当該ラボでは、東芝エレベータ(株)との共同研究で、モビリティの観点から見たエレベーターのアクセシビリティの改善に取り組んでいます。特に、中野泰志教授(経済学部)には、これまでのユニバーサルデザイン、バリアフリー研究の豊富なご経験に基づくご意見を頂戴しています。こ

れにより、車椅子利用者や視覚障がい者の方々からのご協力のもと、当事者のご意見を反映する取り組みを行っています。

具体的には、エレベーターかご内のユニバーサルデザインはどうあるべきか? ということに焦点を当てています。操作パネルのボタン配置は車椅子利用者にとって適切なものになっているでしょうか? 弱視者の方々にわかりやすい操作パネルとはどのようなものなのでしょうか? 車椅子利用者が安全に利用できるようにエレベーターは設計されているのでしょうか? 操作パネルと手すりの関係性はどうか? 私たちはフィールドワークやプロトタイピングを通じて、こういった観点から真のユニバーサルデザインを追求しています。さらにエレベーターホールのあり方、そこに至るまでのアクセシビリティについても検討したいと考えています。

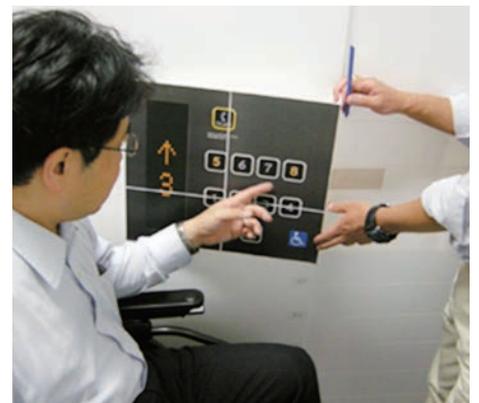
### ユニバーサルデザイン事例



日吉キャンパス第8校舎内エレベーターホール



エレベーターかご内プロトタイピングの実験風景



車椅子用操作パネルの検討



### 書籍紹介

## 『明日を拓く現代史(SDM講義録)』

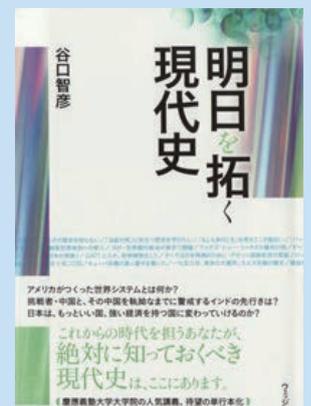
2011年とは何かとモノを思われた年だった。明日の東京が、果たして今日と同じか確信できない経験を初めてした。政府は空語ばかりを発して機能せず、マクロ経済は日々悪化を続け、およそ出口がない感じだった。

そんな時、海上自衛隊新任実習幹部の遠洋航海に同伴を誘われ練習艦隊に同乗し、将来国防第一線に立つ若者がいま知るべきことは何かと大西洋上で思いを巡らしたところから、本書の着想が生まれた。自分の講義で述べてみることにし、話材を原稿として、毎回準備した。それを再録し、序論など加えてできたのがこの本だ。

SDM生の大方に、歴史コンプレックスがある。知らず

に来た、興味を抱けずにきたことへの負い目だ。本書はいわば統領の材に読ませたい線を狙って問題意識優先にしてある。日本の現代史とインドのそれが並列に並ぶ。未来を考えるという当代の用に供することを狙う自称「当用史」だ。面白いと、学生の反応は一様に良かった。

それ以来本書は毎回一種の教科書扱いとしているけれど、同じ話を二度したくないという自分の性癖が災い(幸い?)し、各章を順次追うていの、驚きに乏しい授業を聞いた学生はいまのところ現れていない。政権の内幕だとかスピーチ作成の現場だとかを書けと時折言われるけれど、暴露物は生来性に合わず、多分書かないだろう。



著者: 谷口智彦  
出版社: ウェッジ  
2013年4月1日



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館

Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: [sdm@info.keio.ac.jp](mailto:sdm@info.keio.ac.jp)

**SDM**  
System Design and Management